2022年（令和4年）6月10日（金曜日）

北海道新聞

第3種郵便物認可

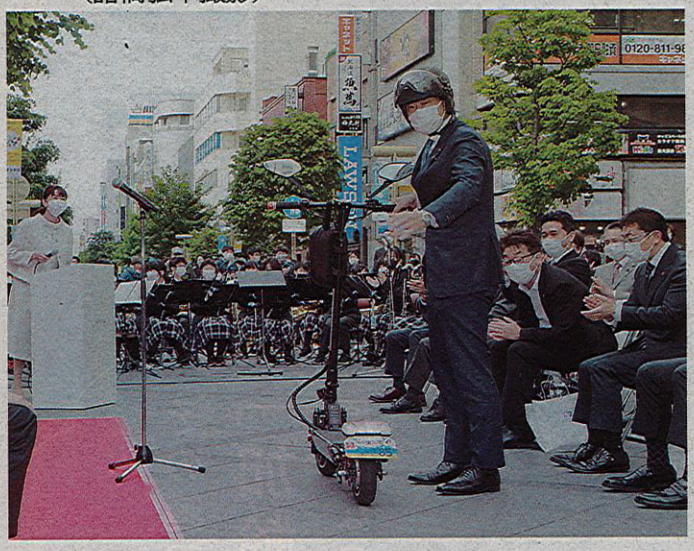
買物公園に電動ボード導入

中心街活性化の起爆剤に

旭川市検討

旭川市が平和通買物公園など中心市街地を活性化させる起爆剤として、電動キックボードの導入に向けた検討を進めている。今津寛介市長は活用を選挙公約に掲げており、1日の買物公園50周年セレモニーでは自身が乗って登場するなどアピールに躍起だ。だが、買物公園は車両の通行はできず、実現に向けたハードルは高い。市は今夏以降、交通手段に関する市民アンケートを行ったり、買物公園のあり方について市民の意見を聴いたりするほか、電動ボードを知ってもらうためのPRに力を入れる。（佐藤愛未）

平和通買物公園の50周年セレモニーで電動キックボードに乗り登場した今津寛介市長＝1日（諸橋弘平撮影）



市長「議論してほしい」

電動キックボードは、電動モーターで走る1人用の乗り物でスケートボードに自転車のハンドルをつけたような形状。道路交通法では原動機付き自転車に分類され、公道を走行するには運転免許が必要。ナンバープレートやミラーの取り付け、ヘルメットの着用などが義務付けられている。

比較的すぐに乗りこなすことができ、ペダルをこぐ労力もないため年代を問わず利用しやすいのが特徴。全国で注目を集め、上川管内では東川町の観光会社も貸し出しを行っている。

だが、歩行者専用道路の買物公園では使用できず、通行するには専用レーンの設置や信号機が必要になる可能性もある。冬は積雪のため使用期間が限られるほか、安全面や歩行者天国として積み重ねた買物公園の歴史を変えることにもなり実現への課題は多い。

1日のセレモニーでは警察の許可を取り、コースを限定したことで実現した。「規制があることで買物公園が発展できないことはあってはならない。今の時代に合った発展の方法を考えたい」。セレモニーで今津市長はそう強調し、活用への強い意欲を示した。

4月に成立した改正道交法では、性能上の最高速度が20キロ以下であれば、16歳以上は免許不要で運転できる。原則として車道や自転車専用通行帯での走行だが、最高速度6キロ以下に制御されていれば、歩道も走行できるとしている。2年以内の施行を予定している。

こうしたことも見据えて市は、導入時の環境整備も検討している。その一つとして、レンタル用電動ボードのための駐輪場を複数設けて、乗り降りしたい場所で貸し出しと返却ができる方式を想定している。使用範囲は旭川駅前や買物公園周辺を軸に、常磐公園なども視野に入れている。

さらに市は中心部への交通手段などを問う市民アンケートを実施する予定。買物公園のあり方について30～40代を中心とした懇話会も立ち上げ、活性化に向けた検討を加速させる。また電動ボードを周知するため、夏にも電動ボードの実機に触れたり、交通ルールを学んだりするイベントも計画している。

今津市長は「セレモニーで電動ボードに乗り、買物公園についての議論をスタートするスイッチを押した。タブーのない議論をしてほしい」と話した。